

地域経済をリードする 産業 栽培 メディア

# コロンブス

MONTHLY COLUMBUS

ビジネスの新大陸を発見!!

# 3

2016  
MAR  
700円

[特選銘柄]

ラオスの小資本家や  
地元農民らとともに  
コミュニティビジネス  
を創出!!

岡谷浩之  
徳島山通商 東南アジア担当次長

## 「Win-Win」の精神がカギを握る

# TPP時代の

# ASEAN

# ビジネス

## ASEAN BUSINESS FOR TPP ERA

[原発ゴミ処理問題と地域振興]

あらたな復興拠点として新病棟を設立  
県民の心と体を守る県立医大の地域振興  
竹之下誠一・公立大学法人 福島県立医科大学 理事(復興担当)

[特別編集顧問・浅野純次のグローバル人間図鑑]

ASEAN新興国のインフラ整備と  
現地企業の技術力向上は日本が担う  
塩原英雄・一般社団法人アジア国際協力連携支援機構 アドバイザー

[元気のでる地域連携塾]

笠間市に誕生! 移住者たちが仕掛ける  
交流と観光の拠点「カフェナナイロ」



九州 — 鹿児島県

(株) アーダン

奄美大島から界面活性剤不使用の「シルク化粧品」を内外に発信

奄美大島でシルクといえば、特産品「大島紬」を思い浮かべる方が多いのではないかと。ところが、(株)アーダンの西博顯社長は「シルクの持つ力を生かした化粧品や医薬部外品を国内外に発信していきたい」とあらたな切り口でシルクを活用している。

同社の創業は1995年。西社長の母親であり、現会長の西里依氏が57歳のときに「自然素材を使った



同社のシルク化粧品「シルクフィブ」シリーズ

化粧品をつくりたい」ということでシルク化粧品の製造・販売に着手した。以来、同社は「シルクを基礎の材料にすることで、界面活性剤を一切使わないこと、天然素材のみを使うこと」にこだわり

続けてきたという。

一方、西社長は京都大学医学部に進学、卒業後は大

可申請などで母親の仕事を側面からサポートしてきた。社長に就任したのは5年前、それからは化粧品に加えてシルクを素材にした独自の商品開発にも力を注いでいるそうだ。

では、同社の化粧品にはどのような特徴があるのか。そのひとつが同社が独自開発したシルクを溶かす技術だ。試

行錯誤の末、上質な繭のシルク

社長の自社採点

企画開発	☆☆☆☆☆
営業力	☆☆☆
成長力	☆☆☆☆
収益力	☆☆☆☆
地域貢献力	☆☆☆☆☆
人材力	☆☆☆☆
専門性	☆☆☆☆☆
リサーチ力	☆☆☆
計画性	☆☆☆☆
リスクマネジメント	☆☆☆

■会社概要  
本社・鹿児島県奄美市名瀬和光町7-8 ☎099771541  
2378 / 設立1995年 / 資本金8999万9788円 / 従業員51名  
<http://adan.co.jp>



シルクを素材とした独自の商品づくりに尽力する西社長

でも、養蚕農家は30年ほど前に姿を消してしまっていたのだ。そこで、西社長は養蚕業復活に力を入れ、2011年から養蚕事業に着手し、関連会社の(株)奄美養蚕を設立。その成果ははやくも上がっており「化粧品などに使用されているシルクの8割は群馬県産だが、この数年で奄美産を2割にまで増やすことができ

た。今後は地元産をもっと増やしていきたい」という。

同社ではこうして国内での体制強化、販路拡大に努めるとともに、海外にも目を向けている。すでに絹織物のまちとして知られるフランスのリヨンに着目し、13年にはフランス現地法人「アーダンフランス」を設立。昨年からフランステレビ局でカタログ通販をはじめ、この4月にはいよいよ通販番組の放映をはじめるといふ。「美容業界におけるフランスの発信力はバツグン。検証データをシッカリと提示し、リピーターを着実に増やしていきたい」と西社長は意気込んでいる。フランス市場を足がかりに、EU圏への展開や台湾やマレーシア、香港、北米での市場獲得を視野に準備を進めているという。奄美産のグローカル企業に注目が集まっている。

太鼓判押します!!



鹿児島県商工労働水産部産業立地課企業誘致係 主査 壺岐健太郎さん

同社はシルク化粧品の製造に加え、シルクのさらなる可能性を求め、再生医療分野における医薬部外品の製造に取り組んでいます。また、約30年ぶりとなる奄美大島での養蚕業の復活に取り組みられるなど、今後の活躍に期待しています。



社長のコメント